

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームひかりの丘 ひかりの丘1F
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市西坂元町6-4-1
記入者名 (管理者)	伊東 睦雄
記入日	平成 22年 2月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	今、現在の理念に基づき、更に地域密着型サービス事業所としての役割を自覚し、それを目指した介護事業所でありたい
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	理念を常に意識出来るように目につくところに掲示している
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	実情として部分的にしか浸透していないかもしれないが、管理者・職員も無意識に心の中に根付いている
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	5年間(建立)の歴史もあり、発足時よりかなり近隣との交流も増し、協力もお願いできる状態にある
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	入所者のADLの問題、季節的なこともあり、入所者全員が参加できないという実情はあるが、少しでもベストに近づけるように交流を進めている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員会議などで地域の高齢者やそのご家族へ、グループホームあるいは介護職として力になれることを話し合っている	○	ここ1～2年、特に地域の高齢者の集会、介護に取り組んでいるたの会合に招かれ、講演する機会があり、今後も大局的に介護をとらえた会合に参加したい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価終了後、職員全員で会議し検討、善処していくようにしている	○	外部評価終了後、トータルの意味で管理者を筆頭に職員がレベルアップに努めたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は大切なポジションを担っている。最近少しずつ形態が変化し、ホーム側の内情報告もだが、以前に比べると外部の意思状況が述べられる機会が多いことを良いこととしたい	○	以前は、運営推進会議の出席者が民生委員と第3者委員とご家族代表にとどまっていたのが、最近は、範囲が広がりそれ以外の方の出席もあり、これからも輪の広がりに努めたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とも連携を深めている。それに、地域包括センターとの連携なくしては考えられない	○	市職員・社協・地域包括支援センターとの連携をより深め、相談指導を仰ぎたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な研修会に出席し、情報の把握には努めている。地域福祉権利擁護事業(日常生活自立支援事業)、成年後見制度については一部の者を除いては学ぶ必要がある	○	勉強会を持ち職員とともに活用方法・理解を深めるよう努力したい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者を筆頭に職員も虐待防止に努め、認識している	○	ホーム内で虐待はないと認識している。又、介護相談でホームに来園された方には、そういう現状に陥らないように支援し援助するよう努めている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	質問・疑問に対し、明確に答弁できるよう準備は怠らないようにしている
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	認知症の周辺症状を含め、利用者の状況の把握の徹底、傾聴に努めている
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	健康状態については、往診。受診時ホーム職員そしてご家族の立場に立って、医師とのやり取りに努めている
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	管理者との個別面談・ユニットリーダーとの面談は必要に応じて良く行われている
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	管理者が時間外労働をすることが多く、負担の分担が必要とされる
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	職員がここに持ち合わせているパーソナリティを尊重し、介護その他職員が抱えている問題を把握し、話し合い離職に至らないように努力している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は用途に応じて、均等に振り分けている 育成計画は、国家試験取得等を踏まえ、受験体制を考慮し、推進している	○ 他施設との交流、法人外の研修には職員の希望・意見の調整がつかず、あまり実行されていない現状である
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りは重要で、地域の同業者とは可能な限り交流を持つように心がけている サービスの質の向上のため、勉強会・懇親会に出席しているが、全職員対象となっていない	○ 現状の業務におわれ、同業者との交流は、少々困難であるため、余裕ある介護現場が望ましい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	介護現場は非常にストレスをかけやすいと思っている。そのため、ケアする人のケアが欠かせない状態である そのためには勤務の均等化、公休の完全取得に努めている スペース的に休息場所が少ないため苦慮している	○ 交替で休息を取るよう指導しているが、ホーム内での休息は見守りしながらであるため、十分とはいえない状況である
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務のローテーションを組む場合、職員の希望はほぼ受け入れて、働きやすいようにもっている 管理者を除き勤務外労働は、稀である	○ 管理者のフリー業務を増やし、時間外勤務をなくす努力が必要
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所に至るまで、数回の面談もあり、その間にアセスメント出来るようにしている	○ ご家族は勿論のこと、本人様との聞き取りをし、十分な傾聴が今より出来るようにしたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族とは何回も話し合いの場を持つことにより、不安、訴えを傾聴し、その思いを受け止め、アセスメントに位置づけるように努めている	○ 独居の高齢者の入所の場合、どうしてもご家族情報に不明な点があり、手探り状態のまま、介護に入ることがある。十分な調査ができるように努力したい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応は重要であるため、面談で十分な話し合いを持ち、支援方法・支援内容を話し合い、サービス内容を提供、対応に努めている	○	他の施設を含めた、サービスについて利用者・ご家族本位に考慮し、「想いを大切にしたい」対応に心がけている
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り、本人様にホームに何回か来て頂き馴染んでもらうようにしているが、緊急性が高い場合などは、他の入所者と馴染めるように職員はご家族に協力してもらったりして(しばらく一緒にいてもらうなど)、工夫・努力している	○	本人様が安心して入所できるように“和み”気持ちを大切にしたい
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	喜怒哀楽の共感の重要性は認識しており、共感・傾聴もしくは、本人様に話を聞いてもらうなど、気さくに盛り込んでいる	○	利用者に昔のしきたりなどを教えて頂き、それを実行するなどもっと積極的に取り組みたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会の折など、時々同席し、雑談をすることにより、両方の想いをくみ取る努力をしている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族あつての、本人様です。その絆を大切に、ご家族とより良い関係の構築に努めている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所は・人は利用者の人生にとって必要不可欠なものと思っている。そのパイプ役としての役割を担えるように努めている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を常に把握し、利用者が社会性を保てるように、気を配ることが大切 コミュニケーションに不都合が生じたときは、中立の立場を取るよう努めている	○	利用者間の諍いや気まずさは、いち早く察知し、開けるに努めることが大事

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	緊急入院、他施設への入所など、可能な限り面会を続け、ご家族の意向を把握し、相談に乗っている	○	一度できた縁はと持ち続けることをモットーにしている
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的日常(食事・入浴等)以外は本人の意向を最優先にし、自己決定を尊重している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	課題分析を常に念頭に置き、生活記録を把握し、ケア会議などで話し合い、サービスに努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所に至る時、ご家族・それまでの担当ケアマネからの情報把握をするが、実情と異なることもあり、暫く系観察に努め、カンファレンス等により課題を明確にしていき支援に持っていくようにしている	○	管理者が利用者全員の心身状況把握を怠らない
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	チームケアを重要視し、職員全員で取り組む体制を整えている ご家族とのケア会議を行い、問題提起・解決に当たっている	○	ホーム以外のチームケアの促進に努めたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの作成・モニタリングはケア会議を持ち現状把握・見直しに努めている 定期的見直し以外の緊急的見直しは、ご家族の意向を踏まえ、管理者・ケアマネ・ユニットリーダーが主となって行う。身体的なものは、主治医の意見を最優先にしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録での記述・口頭での申し送り。又、引き継ぎノートでの確認により行われている。 すべての情報を、共有、認識するように努めている	○	入所者のADLの変化は日々違うといったことも過言ではなく、常に注意を必要とする
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族からの、外出・外泊要請には制限せず、奨励している	○	限られた入所者しかホーム外の生活をされていない現状職員が務めて外出に同行するようにしている
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	社会資源の活用、情報交換、共同に努めている 地域の文化機関の活用、消防機関の協力も得ている	○	民生委員さんの協力は大変ありがたい ボランティアの категория に考慮の余地あり
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス利用はほぼ不可能な現実となっている 他のケアマネジメントサービス事業所と話し合い、情報取得に努めている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現実、地域包括支援センターとの協働は不可欠となっている	○	地域包括支援センターも上町地区以外からも、協力を頂いておりありがたいです
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様ご家族の意向を大切に、担当医を決定し、定期的 に往診・受診で対応している 医療との連携なくして、介護は無理だと認識している	○	夜間の緊急時対応も入所者は、全員受け入れ態勢が整っている。担当医・主治医に感謝している



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	入院中は、利用者本人の負担を考慮してうえで、可能な限り、管理者をはじめ職員が面会し、コミュニケーションをとっている
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	重度化した場合、グループホームでの処遇だけでは限界があるため、いくつかの指針を主治医、ご家族と話し合い決定する
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	ご家族の意向を常に最優先している
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	他の場所への住み替えについては、時々面会に行き(病院以外はほとんど特老)馴染みの関係を少しずつ減らしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	管理者の指導のもと、入所者には敬語を使うようにしている プライバシーを損ねることがないように、十分配慮しているが、見守りの性質上、やむを得ない場合がある 個人情報の折扱いは十分配慮している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人・ご家族の意向に沿ったケアに取り組んでいる 自己決定を尊重し、「その人らしさ」を引き出せるような支援を行う努力をしている	○ 利用者の意思決定に関して、職員のケア能力の向上が望ましい
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	穏やかに、たおやかに充実した日々を暮らせるように、パーソン・センタード・ケアを念頭におきながら支援している	○ 一人ひとりニーズは異なり、ケアも異なる。可能な限り「生活する人を中心としたケア」「利用者を中心とした選択ケア」を心がけている
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は本人様の意思を尊重し、行きつけの店あるいは専門に来てもらって、ホーム内でカットなどしている	○ 時に化粧を勧めることもあるが、本人様の意向に沿っている
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備などは、職員が担っているが、配膳、後片付けなどは出来る人に手伝ってもらっている	○ 季節の食べ物・行事の時の食事を常に取り入れ、眼で楽しむことも考慮している
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	主治医の了解を得たうえで、嗜好品を出している 又、外食の日を設け、好みのものを選び、楽しんでもらっている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握するため、チェック表を作成し、支援している	○	プライバシーを尊重しているが、ケアの関係上十分ではない
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はタイミングが重要で、スムーズに進めるための努力が必要 見守りの観点から、コミュニケーションの発揮が原則		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	室温・光に配慮している。日中の居室での休息は昼夜逆転にならないように注意し支援している	○	体調を考慮して、休息は夜間帯にさし障りのな程度に留意している
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所時に本人様の生活歴を把握し、ホームでの生活を楽しんでいただけるように支援している 役割分担は非常に難しいため、レクの形に持っていきよう心がけている。TVだけでなく新聞や本を見られる利用者も多い	○	日常的に洗濯物干し、たたみ、食器拭き、テーブル拭き、お茶くみなど
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談して、所持してもらっている。簡単な買い物など職員同行でいかれるため	○	大半の利用者がお金を所持しないことに不安を持ち、常にお財布に二〇〇〇円程度入れている
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出・ドライブ・買い物などは可能な限り支援している また、外食も冬の2カ月を除き実行している	○	ご家族での外出支援がとても少ない
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	特別の希望などご家族の了解を得て、墓参りなど同行している 絵画展なども希望により同行している	○	常に個人のニーズに答えられるように体制をとっている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙に関しては、基本的に制限はないが、ご家族からの要望で事情により配慮している点がある	○	ご家族の要望と利用者の要望の板挟みになる時がある
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族に関しては、面会時間も含めて制限はないが、友人・知人など馴染みの人たちに関しては、ご家族・ご本人の意思確認を行っている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに関しては、職員も熟知し、徹底している	○	常に勉強会などで、身体拘束をしないケアについて話し合い、ゼロの取り組みをしている
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は鍵を掛けないが、非常口に関しては、事故防止の観点から鍵をかけている 居室に関しては、全く鍵をかけないケアをしている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在確認に留意し、24時間事故防止に努めている	○	帰宅願望が見受けられる利用者に関しては、特に配慮している
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人の意向を汲み保管管理し、又、危険性の高いものはご家族と話し合い障害物と判断したものにつき対処している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止に関しては、常にケア会議等で話し合っって防止に心がけている。特に、その人に合った防止策を検討しているが、夜間帯に苦慮する 防火訓練も行い、地域の協力も得られるように努力している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを作成し、ケア会議・職員会議等の勉強会で確認している。又緊急時の連絡網を作成し、其れにのっとっているが、応急処置の訓練・勉強が必要とされる		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に数回災害訓練を行っている。 運営推進会議を通じて、災害時の避難マップなど製作途中である	○	ご近所の協力依頼はしている
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時は勿論、経過年数とともにリスクの拡大は予想されるため、常にご家族とのケア会議で説明し、リスクを抱えてもより普通の生活ができるように支援している	○	ご家族が忙しいことや遠方のため、ケア会議が頻繁に持たないことがある
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックなどを基本に、体調変化には気を配り、情報の共有化、聞き取りなどのケアに努めている	○	細やかな観察と、介護と看護の両面から対応するように心がけている
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報については、職員全員が、情報を共有・把握している 服薬が変わった場合などは、申し送りで必ず、情報の伝達を行う		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防のため、食事の工夫、飲み物の摂取に気を配り、排便チェック表で確認し、身体運動を支援する	○	便秘症を抱えている利用者に関しては、特に注意し、腹部マッサージなどを主治医のもと行う
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは、ほとんど毎回食後に行う良支援している 義歯などの不都合は定期的もしくは、其の都度、調整を歯科医に依頼している	○	歯科医による口腔ケアの指導(勉強会)を計画中

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取・水分摂取に関しては記録してある 調理職員も栄養バランスを考慮し、糖尿病食、刻み食など支援している	○	年間を通じて、水分チェックに努めている 栄養バランスについては、管理栄養士を招いての研修会を持ち指導・助言してもらっている
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルを作成、又勉強会等で対応を学び、基本的なこと（手洗い・うがい・マスク）等を励行している お風呂の水質検査も実行している 食事のときの手の消毒は必須		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常に調理器具の消毒は実行し、買いだめをせず、新鮮な物の提供に心がけている。刻み食の際は手袋、手の消毒をしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の絵や花を欠かさず、出入りがスムーズにできる様にしているが、狭いのが難関である	○	駐車スペースなどが不足気味
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔をモットーとし、常に季節の花、絵画等で雰囲気作りに努めている	○	建物の構造上仕方ないが、1階は薄暗く感じる
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間に置かれているソファでレクリエーション等を行えるように配置し、くつろげる空間になるように努めている	○	気の合った利用者同士が一つのソファでくつろぐことが多く、場所が一定している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と話し合い、好みのものを置いたりしているが、動線上、夜間帯に配慮し、排除しなければならないことが多い	○	馴染みの家具の持ち込みは出来るが、ベッドとダンスで十分となることが多い
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節には気を配り、換気も行っている 排泄物の匂いに気をつけたい		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スペース的に広くないため、機能優先で動きやすさを優先にしている 安全が基本		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかる力を生かす工夫は、居室を間違えない・トイレの場所に自分で行くなどであるが、その点は自立しているため特別なことはない	○	今はないが、混乱をきたした時の工夫を検討すべきである
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ活用をしているが、洗濯物干しの時の利用が多く、利用者は自由に出入りしている 建物の外回りは、基本的に職員が付き添い、近隣の散歩に充てている	○	空間が基本的に不足している(狭い)ため、工夫が必要である

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の
	②利用者の2/3くらいの
	③利用者の1/3くらいの
	④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある
	②数日に1回程度ある
	③たまにある
	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と
	②家族の2/3くらいと
	③家族の1/3くらいと
	④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム ひかりの丘 ひかり2F
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市西坂元町6-4-1
記入者名 (管理者)	伊東 睦雄
記入日	平成 22 年 2 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本的で解りやすい、理念であると思う	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有のため、常に見やすい場所に掲げ、理念の実践に取り組んでいる	○ 理念に対する意識がけが今以上に出来るように、ミーティングの際毎回再確認を促す
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入所の際、理念説明を行っている 運営推進会議などでも、理念を提示している	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な挨拶に始まり、自治会加入などして、情報交換を行っている 近隣の介護相談事も気軽に受けている	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動の一環として、校区のバザーに参加したりしているが、車椅子使用があり限られた利用者になっている	○ ドライブ・買い物以外の外出を避ける利用者がいるため、地域活動の参加が限られている。工夫すべき課題である

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等を利用した地域の民生委員を通じての、相談などあり、話し合い、協議し役立っている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が指摘に対し理解し、ミーティングするが、評価の意義をすべて理解し、取り入れるように取り組みたい	○	評価の意義の理解に努める
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、とても重要で多くのご指導・ご意見を頂いている又、強力な援助者でもあるため、もっとサービス向上に役立てたい		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターの職員との連携なくしてホームの運営はできない サービスの質の向上に向けて、状況報告・ご指導してもらっている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度並びに成年後見制度については、職員全員が理解しているわけではない	○	勉強会・研修が必要
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを通じケア会議で常に意識浸透させている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、管理者がすべて執り行い、解除に関しては、事前にご家族を交えたケア会議を持ち、十分な話し合いをしている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満など職員が察知し傾聴に努めるが、管理者を交えての話し合いをしている	○ 内容が、単独での外出・医療的食事制限に対する不満のため苦慮している
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態については、定期健診などを含む受診報告、来園時の面会報告等、金銭管理については1月に1回の報告もしくは面会時の提示サインなど、その他については月に1回の「ひかりの丘通信」で報告している	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等については、ほとんどケア会議等で話し合い、運営に反映している	○ 相談などは、ケース記録に残し、検討している
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に管理者が職員との話し合い・意見交換に取り組んでいる	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務調整は、職員の希望を考慮し、勤務表を作成している ご家族の状況変化などに伴う対応については、職員体制を柔軟に配置できるように努力している	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員によるケア実践に十分留意している。そのため離職を最小限に抑える努力をしている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等積極的に参加している	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の勉強会や懇親会に参加しているが、情報交換などは、管理者止まりが多い	○ 相互間の訪問・職場訪問など広げたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	悩みやストレスを傾聴しても、改善するための流れができておらず、職員のストレス解消に至らないことがある	○ ホームのストレスは管理者の、現場のストレスはユニットリーダーまで届くような流れを作り、改善に努める
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の業務におわれ、研修等を後回しにすることがあり、スキルアップのための勉強も怠りがちの状況であるが、努力や実績の評価はしてもらっている	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所に至るまでの相談は十分傾聴すべきだが、緊急性が強い場合は、入所後に取り組むこともある 最初の段階で、ご本人の希望を聞くことは必須である	○ 入所が決まった段階での管理者・ケアマネ・ユニットリーダーとのカンファレンスを十分にシケアに入る
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	生活特性を十分に把握するとともに、ご家族の相談・不安・希望を聴きアセスメントを行っている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	課題を明確にするために、情報交換・話し合いにより対応している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者一人ひとりの状態像ライフスタイルなどを考慮した上でサービス開始を始めるが、カンファレンスを十分行う		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の行動が利用者の影響を及ぼすため、ケアの心を忘れずに思いやりの心で接している		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の支援は利用者をケアする上で必要不可欠で、お互いの協力なしでは考えられない		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来園時の面談・ケア会議・電話・通信等で状況報告に努め、関係の構築に努めている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者によっては、生活歴を語りたがらない人もおり、すべてを把握することは難しいが、折にふれ会話の中に馴染みの人とか場所を盛り込もうと努力している	○	利用者の会話から生活歴や大切な経験を引き出せるように取り組む ご家族からの情報収集に努める
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係把握には常に注意し見守りを実施している かばい合い・助け合う場面も多いが、その反対も起こるため、・孤立しがちな利用者の対応として、職員が間に入り交流の場を提供している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現状報告・近況報告などしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、自己決定ができるよう声かけなど工夫し、利用者から思いを引き出す努力をしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活履歴を知ることは、その人に合ったケアを実践するうえでとても重要なので、情報収集・把握に努める		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	基本的な生活（食事・入浴）以外は一人ひとりが自由に過ごせる体制にある 利用者に合わせて行動・会話・お手伝いを変えコミュニケーションの取り方も個別に行っている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	最低でも月に1度のミーティング・カンファレンスを行い意見交換に努め、チームケアを基本にしている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間も明示しており、変化にも対応するため、ケア会議を開き、其れに沿ったケアプランの作成をしている		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記載し、職員の申し送りや情報伝達を確実に行う すべての職員が情報の共有をし、介護計画の見直しに反映させている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	主治医による往・担当医による受診支援 有料散髪の定期的訪問サービスや希望に応じた美美容室の利用時の支援 マッサージ師の定期的訪問支援		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域社会との関わりが薄い利用者のため、民生委員やボランティアの方々の訪問は重要 地域のバザーや文化的交流が望ましいが、身体的・年齢的に無理が多く、ご本人の希望も少ない状況である消防訓練は全員参加	○	希望により、絵画展にお連れしたらとても喜ばれ、これからも企画したい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ほとんど無い		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は不可欠 相談・支援をしてもらっている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お一人おひとりがかかりつけ医を持ち、常に関係機関との構築に努め、支援している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保持・守秘義務を徹底し、利用者の尊厳の維持に努めている ケース記録は、ご家族以外の開示を避けている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で、自己決定ができるよう声かけ等工夫し、利用者から思いや希望を引き出せるように努力している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	優先順位の大切さを日頃から意識づけており、利用者のペースを考慮の上でしかケアは成り立たない	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好まれる衣類の把握・着用前の確認を実施・状況に応じた服装支援が出来ている 髪のカットもご本人希望を尊重、支援している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とともに食卓につき、必要な時にサポートできる体制にあり、会話によって楽しく食事できるように支援している 箸や湯飲みなど使い慣れたものにし、食器も料理に合わせたものを使用し、季節感にもこだわっている 1Fと異なり後片付けを手伝っていただくには無理がある	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・たばこの嗜好品を好まれる方はほぼ皆無 食事制限のある利用者については、主治医と相談・数値の結果でおやつを変えている 四季折々の食事を出しているが、刻み食あるいはとろみ食などの時、利用者の食事の支援を強化している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	排泄の訴えない際、さりげなく排泄の有無を確認し、トイレを促し支援している 排便チェックを怠らない	○	排泄パターンが狂った場合など、声かけの工夫を実施し、対応をミーティングし最善の方法がとれる様に支援している
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルの実施、表情・身体状況の観察を行い、入浴拒否がないように努めているが、タイミングがずれたり、ドクターストップ等により完全ではない	○	入浴介助用具の工夫、主治医との連携を密にし、利用者が望む入浴ができるように努力していく 介助の必要な利用者が安心して入浴を楽しめるように支援していく
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの行動パターンを乱さないように支援し、リズム作りを心がけている 過度の休息に気を配り、より良い睡眠のため日中の行動を増やすなどしている		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌を歌いながらのリズム体操を取り入れたり、生活の中で苦痛にならない程度に、歩行・立位場面を作っている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つことの大切は理解しているが、トラブル(他者)が多いためホーム預かりで対応している	○	トラブル内容を徹底的に改善し、金銭管理をご本人が少額の取り扱いができるように支援していく
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブを兼ねた買い物など行っているが、外出に積極的な利用者の支援が必要である	○	2階であるため、散歩が少ない。ご家族との外出はもっと少ないため、問題提起しミーティングを増やしていく
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者のご希望で絵画展など職員同行で支援しているが、ご家族のご協力も得て回数を増やしたい		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、入所者の希望時、居室で使用・対応している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問し易い雰囲気作りに努めている 訪問客に対しては、なるべく居室での対応に心がけ、お茶、お菓子などを出している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒・骨折などの危険が大きく、歩行要注意の入所者に対して、夜間のみご家族の同意のもとでベッド柵を使用することがある その他は、マニュアル厳守	○	歩行状態が安定するように歩行訓練を実施し、独歩可能を目指し取り組中
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の鍵掛けはない 夜間は午後8時過ぎから、玄関・外階段の鍵かけを行う		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守り徹底・スタッフ間の連携により、状況・状態把握出来ている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は、保管・管理し必要に応じて入所者にお見せし、確認を得ている 危険とスタッフが判断したものについては、管理者・ユニットリーダーとの話し合いで対応している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	見守りを徹底し、火災訓練などを行い、事故防止に取り組んでいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	基本的に理解はしているが、緊急時に冷静な対応が取れる若干不安がある	○	ホーム内で緊急時の応急措置など研修・実習を実施し、自然に体が動くよう自分のものにする
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議等の折、災害対策については協議し、協力をお願いしている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族の面会等を利用して、状況報告とともに、起こりうるリスクについて説明し、ケア会議でも話し合い行っている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化・異変の発見に努め、ご家族と情報共有し、対応している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をケース記録に綴りいつでも目につくようにしている薬箱の工夫をし、指示通りに服薬できるように支援している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表にて状況把握し、状態に合わせた対応が出来る		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアが習慣になるように取り組んでおり、必要時歯科医の指導を受けている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表等利用し把握に努めている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルあり インフルエンザなど予防できるものは、措置を取り、その他感染症に対しては、基本的注意事項に沿って話し合い実践している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のための衛生管理は、基本的に調理専門が行い盛り付けなどの補助をする場合、手の消毒などを行い衛生面に気を配っている。また、食品管理についても、担当が責任を持って管理している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	常に開かれた空間提供に努めているが、基本的に二階は玄関周りの工夫などはお任せしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなど、入居者の絵を飾ったり、今の椅子には入居者自身の座布団を使用したりしているが、浴室においては介助が必要ないす・道具が多く若干雰囲気作り欠けている	○	介助道具が気にならないように配置を工夫したり、不必要なものがあれば撤去する
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファースペースをもうけ、いつでも自由に過ごせるように空間づくりをしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者の家具や生活用品を置き、入居者に合わせて畳の部屋にして対応して環境づくりをしている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	状況に応じた空調調節、定期的に窓を開けたりの換気に努めている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、廊下、トイレ等手すり設置し、自立支援に努めているが、脱衣所の手すり配置が悪く現在ある手すりの活用がなされていない	○	浴室などの手すりの工夫をする
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・浴槽の位置づけを何回も行い、洗面の時も同じ場所を使うなど、混乱を避ける工夫をしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	二階は階段踊り場しかないため活用のお場がないが、外回りの散歩等している	○	散歩等積極的に取り入れる工夫を怠らない



V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の
	②利用者の2/3くらいの
	③利用者の1/3くらいの
	④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある
	②数日に1回程度ある
	③たまにある
	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が
	②利用者の2/3くらいが
	③利用者の1/3くらいが
	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と
	②家族の2/3くらいと
	③家族の1/3くらいと
	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)